

ケニア半砂漠地域にあるイシンヤ地区の 学校での環境教育を兼ねた植林緑化活動 (2年目)

活動地域  ケニア



生徒の植樹前に専門家が植樹方法を指導

課題

ケニアのイシンヤ地区は慢性的な干ばつ状態に加え、家畜の過放牧等で樹木が失われている。しかし住民のマサイ族には環境保全の意識や慣習がなく、砂漠化が進んでいる。

目標

学生と住民が植林緑化活動意識を向上させ、学生は自身が植えた苗木の世話を継続する。デモファームで作った野菜が給食で提供される。現地農業省は活動推進体制を整える。



今後の
展望

来年は事業最終年度になる。育苗用水の有無が、苗木の活着や、生徒や住民の緑化活動への意識の定着と向上に直結することから、来年度は育苗用水を供給可能にする灌漑設備を設置し、事業終了後の持続発展を図る。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

- イシンヤ地区4校と周辺4村で植樹を実施し、生徒、教職員、住民等計2,627人が参加、5,000本を植樹
- 4校で生徒、教職員、住民等に環境教育を実施し、計2,627人が参加
- 4校にデモファームを設置し、314人の生徒が野菜栽培研修に参加
- 4校で環境保全会議を実施し、教職員計80人が参加
- 4村の地域リーダー、教諭、行政職員等に地区合同の地域開発研修を1回実施し、50人が参加
- 農業省と連携会議を1回実施し、4人が参加。会議では農業省職員が中心になり環境保全のための活動目標を設定



地域開発研修で積極的に議論する参加者

植林本数 **5,000本**

植樹活動参加者数 **2,627人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **75%**

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

育苗用の水がない学校での苗木の活着率が低く、再植しても同じ結果になると予想できたため、別の方法を検討する必要があった。

■ 工夫した点

苗木の活着と活動の定着には育苗用水が必要不可欠であるため、来年度灌漑設備導入に向けての調査を実施した。

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F

電話：03-3484-5092

E-mail：staff@icajapan.org

HP：http://www.icajapan.org

